

適さなかったために幕府に願い出て建設地を白老に変更しました。

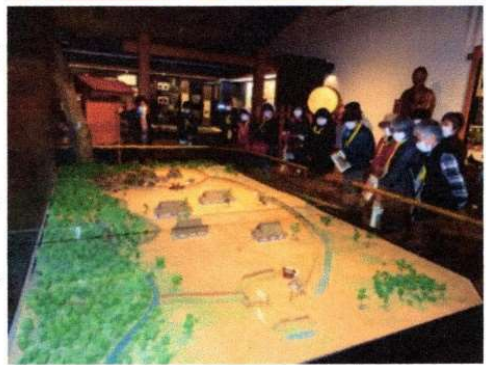
白老の元陣屋では約120名の仙台藩士が駐屯して警備に当たっていました。若かりし頃の中山久蔵は片倉家に仕え、仙台と白老との往来の中で自然観察の目を養ったと考えられます。

なお、蝦夷地警備を命じられた奥羽六藩(弘前藩、盛岡藩、秋田藩、庄内藩、仙台藩、会津藩)はそれぞれ蝦夷地に元陣屋と出張(でばり)陣屋を建設し、現在の北海道、国後、択捉、歯舞・色丹、樺太の警備に当たりました。この中でも伊達藩は白老から根室、国後、択捉の広大な地域の警備を担当しました。

戊辰戦争の勃発とともに各藩の陣屋は放棄され、陣屋として機能したのはわずか12年間に過ぎません。現在、北海道の中の陣屋でもよく管理されているのは白老の元陣屋でもあります。

白老元陣屋の建設にあたっては、建築資材を仙台で組み立てるばかりに加工し、船で運んで組み立てたと伝えられています。元陣屋は本陣、勘定所、兵具蔵、兵糧蔵、馬屋の内曲輪と、約120名の兵士が駐屯した4棟の長屋と稽古場を備えた外曲輪なり、主要部の面積だけでも6.6haで、その周りを二つの小河川から水を引いた堀割と土塁で防御する構造になっていました。

また、外曲輪には故郷を偲んで植えられた樹齢150年を超える赤松が残されています。



恵庭市郷土博物館

最後の訪問地である恵庭の郷土博物館は1990年に開館したもので、大林学芸員の案内で見学しました。印象に残ったのは、カリンバ遺跡等から出土した縄文時代後期の漆塗りの櫛や新潟県系魚川産出のヒスイ、土器と土坑墓や古墳の複製品が展示され、恵庭を含めた石狩低地帯には縄文時代から人が住み、本州や北方圏との交流があった先住民族の世界があったことを示しています。このほかに明治時代からの懐かしい生活用品が展示され、縄文時代から近代までの時代の変遷が垣間見られる博物館です。惜しむらくは道路などに案内標識など整備されていないために近隣市町村の市民たちにはあまり知られていません。



充実した一日を過ごして私たちは予定通り北広島の市役所駐車場に戻りました。(秋林幸男記)

ウポポイ(民族共生象徴空間)・・・ウポポイホームページより転写

